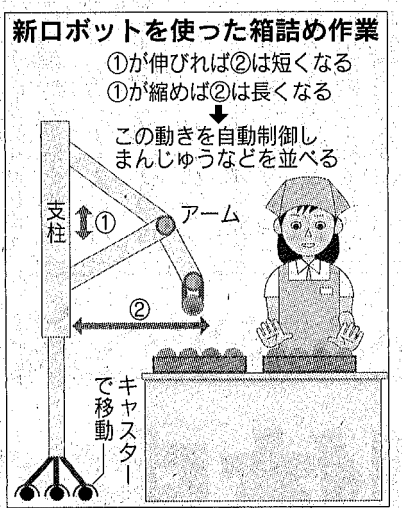
工場軽作業、ロボが代替

スキューズ開発 移動式で小型

生産ライン設計・施工のベンチャー企業のスキューズ（京都市、清水三希夫社長）は、工場での軽作業に使う小型の移動式ロボットを開発した。箱詰めに使う場合、文房具のコンパスのような機構を活用し、モノを運ぶアームの動きと位置を自動制御する。11月の製品化を目指しており、自動車の組み立て・溶接などに使う大型ロボットが置けない狭い工場・スペースでの利用を見込む。

新ロボットは支柱に、コンパスのように動くアームをつけた構造。人に代わって、モノ（1キログラムまで）を運んだり箱に詰めたりする。方向などは支柱の回転によって変える。本体の幅は21センチ、奥行きは81センチで、重さは約30キログラム。キャスター付きの台座に載せて動かす。



産業用ロボットは安全対策から「モーター出力は80ワット超だと柵で囲う」との規制があるが、新ロボは出力を規制未満に抑えた。柵を設ける必要はなく、設置場所の制約が少なくなる。